

附属小学校指導案 様式

学習指導案の例

〇〇科学習指導案(MSゴシック 14ポイント強調)

平成 年 月 日 () 校時

〇年〇組 男子 名, 女子 名

実習生名

指導教諭名

※印は名前にかぶせて押印する

1 単元名 (例) まちがえやすい漢字(MSゴシック 10.5ポイント強調)

単元名・題材名など書き方はいろいろあるが、教科(国語や算数等)や領域(総合や道德等)によって書き方が違う(「」のあるなし等)ので、その都度指導書等で確認すること。また、表記の仕方は教科書に必ず従って書くこと。上記の単元名を普通にパソコンで変換すると「間違えやすい漢字」となるが、学年該当漢字でなかったり、教材名などで作者が意図的に平仮名を使う場合などがあつたりするので気をつける。

2 単元目標(MSゴシック 10.5ポイント強調)

- 基本的には、各教科の観点の順序で書きます。
- 教材研究をしっかりと、意図を持って目標(子どもにつけたい力)を設定する。普通目標は複数あるので文頭の記号は「○」を使います。①などの数字を使わないのは目標に順序性があるわけではないからです。
- 目標のたて方については、学習指導要領をしっかりと読んで確認してください。

3 単元について(MSゴシック 10.5ポイント強調)

(1) 教材観(この教材の持つ価値について書く)

- 一般的なこの教材の持つ価値、及び特性。
- この教材の特性を踏まえて、この教材を選ぶ理由。
- この教材の前後のつながりについて。

教材のもっている教育的な意味・意義・価値について学習指導要領や解説書、指導書などに示されている指導目標・内容等と関係づけて示す。そして、大切なのが教材についての一般的な解釈を書き、次に授業者が考えている教材の価値をしっかり述べておく必要がある。

(2) 児童の実態(児童のこの教科の実態・領域の実態や課題を述べる)

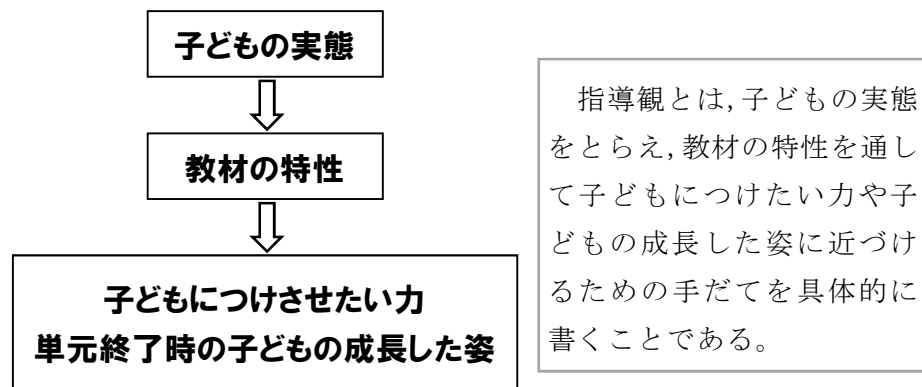
- 学級の児童のその教科の実態に触れる。
- この単元の領域に関連する児童の実態

授業実施学級の児童の実態（教科や教材に対する興味・関心の程度，理解度や既習経験，生活体験，その教材を取り上げることで期待できる子どもの成長等・・・一般的なこの時期の子どもの姿を書く場合もある）を書く。

アンケートなどの実態調査なども有効である。ここに，「男女仲が良く，休み時間はよく遊んでいる」や「給食は皆残さず食べる」などその教科・領域に関係しないことは書かない。

ここが実習生には一番書きづらいところかもしれない。だからこそ観察実習は意識して観察し，事前の担任との打合せでも教科の児童の実態をきちんと把握することが大切である。

(3) 指導観



教材の特性を見極めながら，一人一人の子どもの学びをどのように高めようとしているのか，具体的な方法・方向性を述べる。例えば，児童の実態をふまえ，単元目標に迫るために以下の手立てを表記する。

- ・「辞書などの調べ学習を取り入れたい」
- ・「学習形態を工夫し，ペアやグループ学習を取り入れたい」
- ・「苦手意識を持つ子が学習に参加できるように，視覚に訴えたゲームを取り入れる」

指導の意図と目標との整合性を図りながら，単元を貫く指導の方針と方向性について明記する。

ここをまとめると「こういう児童に(児童の実態)，こういう教材を使って(教材観)，
こういう指導をすることで(指導観)，目標を達成していく。」

という書き方になる。

※教材を教えるのではなく，教材を通して必要な力をつけることが大切である。

4 指導計画（時間数）・・・総時数を明記（単元全体を何時間で取り扱うか）

（MSゴシック 10.5ポイント強調）

- 年間計画における配当時間に準じて総時数を明記する。
- 配当時間が多い場合は、全体の中に小単元などがあるので「1次」等で表記することがある。
- 学習の流れが分かるようにし、指導観で記載した方法を中心にどこでどんな指導が行われるのかが分かるようにする。
- 本時の授業が指導計画の何時間目に当たるのかを示す。
- 教師の支援の所には、評価を入れる場合もある。（評価項目と評価の方法等）

時数	○主な学習活動	◇教師の支援（指導上の留意点）
1	○子どもの学習活動について表記するので、主語は子どもになる。よって、語尾が「～する」となる場合が多い。	◇教師の支援なので、手だてを表記するので、主語は教師になる。よって、語尾が「～させる」となる場合が多いが、支援のために使役を使わない場合もある。
2		
3 (本時)	※基本的に本時の展開も同じ	※基本的に本時の展開も同じ
4		

5 本時の学習（MSゴシック 10.5ポイント強調）

- (1) ねらい…単元目標との整合性を図り、**本時におけるねらいを設定する。**
- (2) 準備…使用する教材・教具
- (3) 展開…主に導入・展開・まとめの過程で考える。（45分の時間配分も示す）

過程	○主な学習活動・発問	予想される子どもの反応	◇教師の支援・指導上の留意点
導入 () 分	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもが主語になるように書く。 ・ 具体的な活動 ・ 主要な発問を表記することもある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 発問に対する子どものつぶやき、動き、内面の様子を予想して書く。 	<ul style="list-style-type: none"> （手だて） ・ 教師が主語になるように書く。 ・ 教材や子どものよさを生かすための配慮事項等。 ・ 配慮しなければならない子どもにどのように対応するか。
展開 () 分			<ul style="list-style-type: none"> ◇教師の支援の書き方 ・ (こんな子どもの姿)にするために、(教師の手だて)をする。 ※評価を含めて書く場合もある
終末			

(4) 評価・・・本時の目標と連携させながら、具体的に子どもの姿で書く。

(5) 板書計画（必ず書く）

○板書は第二の指導案といわれるほど大切である。授業の流れが分かり、子どもの思考や学びの課程が分かるような板書が大切である。

○短冊の使い方や色使いなども重要な板書の構成要素なので、どのように使うかをイメージするためにも、板書計画は丁寧に書く。

※記述上の留意事項

- ・数字は大きな項立てから **I, 1, (1), ①**の順に使っていく。
- ・英数字は半角，全角の決まりはないが，どちらかに統一して記述し，混在させない。
- ・余白は上・下・左・右いずれも20mmとる。
- ・文字，行数は詰め込み過ぎると読み難くなるので注意する。（この頁は**40字44行**で設定）
- ・ページ番号を入れる。
- ・作成はパソコンで行う。（文字の大きさや行間が揃い読みやすい。また修正が容易）
- ・字体は**MS明朝体**，ポイント数は**10，5ポイント**を基本。
- ・各項目は，**MSゴシック10．5ポイント強調**。
- ・指導案名は，**MSゴシック強調14ポイント**。
- ・特殊なフォントは使わない。（MS明朝，強調は可）